

平成 22 年度「認知症対策専門委員会」 開催報告

1 開催状況

第 2 回	内 容
11 / 5 (金)	報告事項 認知症関連事業の現状と連携について 認知症疾患医療センターの利用状況について 平成 22 年度認知症啓発月間事業の実施結果について

2 主な協議事項

以下の項目について、事務局から報告を受けた。

(1) 認知症関連事業の現状と連携について

認知症関連 20 事業の連携機関や連携、紹介の実績等について説明を受けた。

この中で、軽度認知障害対策事業における連携先として、「かかりつけ医」をどのように考えているのかとの質問に対し、気になる方は「かかりつけ医」に相談するよう助言するとともに、希望があれば、「ものわすれ外来」や「認知症疾患医療センター」を紹介しているとの説明を受けた。

また、認知症関連事業と地域包括支援センターとの連携に関連して、民生委員やケアマネジャーの努力により支援のネットワーク化が進み、地域の社会資源との調整が円滑になる一方、困難事例は、地域包括支援センターに集約される傾向にあるとの説明を受けた。

(2) 認知症疾患医療センターの利用状況について

平成 21 年度の相談件数は 570 件で、昨年度と比べ 100 件ほど減少している。原因としては、かかりつけ医の認知症に対する理解が進むとともに、ものわすれ外来等との連携が充実してきたことなどが考えられるが、平成 22 年度の件数の推移も見ながら、今後検証していきたいとの説明を受けた。

相談者別では、「子ども」が 40%で最も多く、続いて「病院関係者」が 19%、「施設関係者」が 16%となっていること、また、相談内容別では、「鑑別診断」が 67%で最も多く、続いて「入院させたい」が 24%となっていること、鑑別診断の結果では、「アルツハイマー型認知症」が 79%で最も多いとの報告を受けた。

また、課題として、「身体合併症のある認知症患者の受け入れ病院が少ない」、「夜間・緊急時の対応」、「入院の受け入れが困難」といった状況があることについて、併せて報告を受けた。

(3) 平成 22 年度認知症啓発月間事業の実施結果について

9 月 21 日から 10 月 20 日の認知症啓発月間期間中に行われた「街頭啓発」、「記念講演会」、「もりフォーラム」等の啓発事業の実施報告を受けた。

内容については、以下のとおり。

ア 「街頭啓発」

9 月 21 日に小倉駅構内及びその周辺にて実施。

市薬剤師会や施設関係者、家族の会等の協力をいただき、チラシや啓発グッズ等 2,000 部を配布。

イ 「記念講演会」

10 月 15 日に北九州芸術劇場で開催、参加者は 553 人。

講演者は、横浜ほうゆう病院院長の小阪憲司先生、作家の玉岡かおるさん。音楽療法士によるミニコンサート。

ウ 「第 5 回もりフォーラム」

10 月 9 日に山田緑地で開催、参加者は 1,712 人

(うち、認知症の人は 314 人)